



# 今井智景

『シネクドキズム 3 by music, photography and visual art』

Imai Chikage

*Synecdochism III by music, photography and visual art*

2022.9.30 Fri - 10.1 Sat

愛知県芸術劇場 小ホール

Mini Theater, Aichi Prefectural Art Theater



**STILL ALIVE**  
国際芸術祭  
あいち2022

## 『シネドキズム 3 by music, photography and visual art』に寄せて

**今井 智 景**（作曲・演出）

今井智景の「シネドキズム」の衣装。左から「シネドキズムⅡ」の衣装、「シネドキズムⅢ」の衣装、「シネドキズムⅣ」の衣装。

国際芸術祭「あいち2022」へ参加のお話をいただいた際、地域の魅力を発見しそれを活かした活動の延長線状にある舞台作品を制作してほしいと言われたのですが、迷うことなく頭に浮かんだのは、豊橋魚町能楽保存会が所蔵する能面と再び対峙すること、そして、それをマリベス・ディグルさんに歌ってほしいということでした。彼女の持つ揺るぎない意志の強さと他者を受け入れるしなやかさは、その声に乗って、聴く人の心を突き動かす力があるので、視覚的にインパクトの強い能面に負けないと思ったからです。そしてこのチームには、同じように魅力的な音色を奏でる江頭摩耶さんと畑中明香さんが必要だと思い参加をお願いしました。制作チームは今まで何度か一緒に仕事して、私の表現に対する考え方や想いなどをシェアしている方たちなので、思う存分に『シネドキズム』の追求と実験ができたと思っています。

『シネドキズム』は、「呼吸」をテーマに、舞台芸術においてその魅力をさまざまな角度から追求し、今までにない表現方法を模索するプロジェクトです。ただ生命を維持するための運動ではなく、精神的にも身体的にも状態をコントロールする上でとても大切な機能を持つ「呼吸」のリズムは、五感を通して伝えられた情報によっても影響を受けます。このような連鎖を踏まえて、想像力にうったえる作品を目指します。

3作目となる本公演では、日本の伝統芸能である「能」の上質な美と美意識が生み出す緊張感をヒントに「心と知覚と身体の関係性」に迫った2作目『シネドキズムⅡ<コンティニューイティ>』のアイデアを発展させて、9体の能面（大天神・老女・増女・泣増・泥眼・小面・黒髭・天神・霊神）を被写体に表情の移り変わりを写真に収め、それを作曲と同時進行で作ったシナリオに沿って繋いだ映像との作品「トランセンドント（神韻縹渺）ーうつしだすもの」をはじめとする新作2つを含めた計6作品を上演いたします。それ

ら作品と作品の間には、伊勢物語より、恋に囚われた男の一生を感じさせる句を7つ選んで組曲にした「むかし、をどこありけり〜」を、その世界観をなぞった映像と共に挟み込み、老いることの美しさを下部構造にした「トランセンドント」と合わせてうつしだす「生命の普遍性」を通して、私なりの<STILL ALIVE>を表現しました。また、400年以上前に活躍した大家たちによる作品（能面）自体にどこまで息を吹き込むことができるかにもチャレンジしています。この作品を通して、日本の伝統芸術における魅力の再発見と同時に豊橋市魚町能楽保存会に所蔵する素晴らしい能面の姿を届けることができたら幸いです。

最後に、このような機会を下さったすべての関係者の皆さまに、この場をお借りして感謝いたします。

|  |        |
|--|--------|
| <b>構成作品</b>  |        |
| <ul style="list-style-type: none"><li>むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」より（ソプラノ・ヴァイオリン・打楽器 ver.）(2022) *</li> <li>トランセンドント（神韻縹渺）ーうつしだすもの (2022) *</li> <li>イントロスペクション (2016)</li> <li>織成 (2018)</li> <li>クロスバンダリー VIII「レゾナンスⅡ」(2019)</li> <li>平調音取（ヴァイオリンソロ編曲作品）(2019)</li></ul> |        |
|  | * 世界初演 |

1　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりI
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano, violin and percussion
<人知れぬ　わが通い路の　関守は　宵々ごとに　うちも寝なむ>

2　トランセンドント（神韻縹渺）ーうつしだすもの I. Beauty with obscureness
Transcendent -mirror for soprano with visual art

3　イントロスペクション
Introspection for percussion solo

4　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりII
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano and violin
<月やあらぬ　春やむかしの　春ならぬ　わが身ひとつは　もとの身にして>

5　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりIII
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for violin and percussion
<いとゞしく　過ぎゆく方の　恋ひしきに　うらやましくも　かへる浪かな>

6　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりIV
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano and percussion
<花にあかぬ　歎きはいつも　せしかども　今日のこよひに　似る時はなし>

7　織成
Weaving for violin solo

8　クロスバンダリー VIII「レゾナンスⅡ」
Crossboundary VIII <Resonance II> for soprano and percussion

9　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりV
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano, violin and percussion
<大原や　小塩の山も　今日こそは　神代のことも　おもひいづらめ>

10　平調音取（ヴァイオリンソロ編曲作品）
Hyojo no Netori from Gagaku arranged for violin solo

11　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりVI
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano, violin and percussion
<思ふこと　いはでぞたゞに　止みぬべき　我とひとしき　人しなれば>

12　トランセンドント（神韻縹渺）ーうつしだすもの II. Transience of life
Transcendent -mirror for soprano with visual art

13　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりV
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for percussion solo
<大原や　小塩の山も　今日こそは　神代のことも　おもひいづらめ>

14　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりIII
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano
<いとゞしく　過ぎゆく方の　恋ひしきに　うらやましくも　かへる浪かな>

15　むかし、をどこありけり〜「伊勢物語」よりVII
Once upon a time, a man... ～ from Ise Monogatari for soprano, violin and percussion
<ついにゆく　道とはかねて　聞きしかど　きのふけふとは　思はざりしを>

**マリベス・ディグル**（ソプラノ）
Maribeth Diggie (Soprano)
ソプラノ歌手、作曲家。ボストン大学タングルウッド・インスティテュート、ルツェルン音楽大学、アムステルダム音楽院で声楽を学ぶ。オランダ国立オペラアカデミーを首席で卒業。振付師アラン・ブラテルのツアーにソリストとして参加。ファブリツィオ・カゾール指揮 [VSPRS] に出演。近年では『Requiem pour L』の音楽ドラマトゥルクとしてヨーロッパ各地をツアーし、日本、韓国、台湾でも公演を行う。現在、ワシントンDCでティム・ネルソン演出のオペラに出演中。2022年には自身のクリエイションとしてオペラ『SOLA SOLETTA』を初演。オペラ業界における女性認知度の向上を目指し、性別による役割分担と多様性を模索している。

**江頭摩耶**（ヴァイオリン）
Egashira Maya (Violin)
名古屋市立菊里高等学校音楽科および愛知県立芸術大学音楽学部卒、桑原賞、中村桃子賞受賞。フィンランド国立シベリウスアカデミーを最優秀の成績で修了。シベリウスアカデミー非常勤講師、ホルト・カサダムジカ交響楽団第二コンサートマスターなどを務め、各地のオーケストラにゲストコンサートマスターとして客演。近年はモザンビークのNPO法人シキツィ・プロジェクトにて指導・演奏にたずさわり、国内外で幅広く活躍中。現代音楽アンサンブル「音楽クラコ座」、アンサンブル・ファルケのメンバー。

**畑中明香**（打楽器・マリンバ）
Hatanaka Asuka (Percussion, Marimba)
同志社女子大学音楽学科及び専修課程修了。日本打楽器協会新人演奏会にて最優秀賞、朝日現代音楽コンクール“競奏Ⅳ”第2位入賞。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学を最優秀で卒業後、アンサンブル・モデルン（ドイツ）のアカデミーメンバーとして研鑽を積む。2006年ダルムシュタット国際現代音楽祭（ドイツ）にてクラーニヒシュタイナー音楽賞受賞。現在は関西を中心に演奏活動を続けている。「アンサンブル九条山」、パーカッションアンサンブル「シュレーゲル」、「アンサンブルMP4」のメンバー。相愛大学非常勤講師。2021年「マリンバ教室京都 四条烏丸」を開講。

**稲田優太**（映像・オペレーション）
Inada Yuta (Visual Art)
立命館大学映像学部卒業。京都を拠点に映像を用いた空間演出、ライブ演出等の表現活動や、施設向けのエンターテインメントを目的とした映像コンテンツの開発を行っている。制作活動の中では、時間軸に縛られず常に変化をし続けることが特徴の“リアルタイムグラフィックス”と呼ばれる映像手法を駆使し、通常の体験から拡張された体験を生み出すことに意識を向けている。

**マーティン・ボヴァーホフ**（映像）\*「トランセンドント(神韻縹渺）ーうつしだすもの」
Martin Boverhof (Visual Art)
デジタルメディアアーティスト、クリエイティブディレクター。アートメディア&テクノロジー学部を卒業後、デジタルメディアデザインの修士号を取得。「Born Digital」を共同設立。オーディオビジュアルショーや展覧会を多数プロデュースし、国際的なメディア・アートフェスティバルで高い評価を得ている。小さなダンスクラブから大規模な公共イベントまで様々なシーンでマッピングやファサードなどを用いて建物の外観や内部空間の演出を手がける傍ら、それらを使ってワークショップや地域と繋がるプロジェクトなども実践している。2015年、パートナーのアンと共に「Studio de Maan」を立ち上げる。

**たかはしじゅんいち**（写真）\*「トランセンドント(神韻縹渺）ーうつしだすもの」
Takahashi Junichi (Photography)
1989年に渡米、さまざまな人種や宗教、価値観が渦巻く環境の中、広告、音楽、舞台と幅広い分野で活動し、2008年帰国。現在は東京拠点。日本の様々な美意識に惹かれ、伝統芸能や工芸などを学びながら、人生のMISSIONである「見える化（見せ方によって、誤解のない、魅力的で人が輝く、優しい社会の一助になりたい）」を体現すべく様々なプロジェクトを企画また参加している。STOMPのオフィシャルフォトグラファー。2009年newsweek誌で「世界に尊敬される日本人100人」に選出。代表作に坂本龍一のアフリカ「ELEPHANTISM」(2002)、市井の日本人カタログ「NIPPON-JIN」(2012) など。



Photo: 藤田亜弓

# 今井智景

1979年愛知県生まれ  
愛知県拠点

愛知県立芸術大学を卒業後、ロームミュージック財団より奨学金を受けアムステルダム音楽院で学士と修士を取得。作曲を湯浅譲二、松井昭彦、W. ヘンドリクス、F. ニーダー各氏に師事。「音楽におけるベクトル (Vector in music)」を探求し、音楽自身が有機体であることを意識して作曲する。その延長線上に、映像や写真、コンテンポラリーダンスなど他分野との交流を深めた作品が多数あり、演出も手がける。作品は、フェスティバル・ドートンヌ、西ドイツ放送局、Music from Japan、ハナツミロワ、鈴木俊哉氏などから委嘱を受け、世界各地で演奏されている。近年では「社会と共存する芸術活動」を追求し、愛知における現代音楽の裾野を広げるため、国内外の演奏家を招いたレクチャー&コンサートシリーズ「クロスバウンダリー」や現代音楽アカデミーの開催、中川運河助成事業ARToC10やあいちトリエンナーレへの参加など地域に根ざす活動を行っている。2020年、アンサンブル・モデルンの40周年記念公演に作品を献上。第28回国際入野作曲コンクール、Prix Annelie de Man Prize 佳作賞受賞。Seainx project 主宰。

## Imai Chikage

Born 1979 in Aichi, Japan.  
Based in Aichi, Japan.

Studying under artists like Yuasa Joji, Matsui Akihiko, Wim Henderickx and Fabio Nieder, Imai Chikage graduated with a degree in Composition from the Aichi University of the Arts in 2002 and received her master's degree at the Conservatorium van Amsterdam in 2009, supported by Rohm Music Foundation. In her compositions, Imai regards music as an organism and explores her concept of a "vector in music" to expand its sensory possibilities. Her artistic practice has led Imai to engage in and direct various works that deepened her connection with visual art, photography, contemporary dance and scenography. Her works have been performed all over the world by some commissions from many different organizations and musicians such as Festival d'Automne à Paris, Westdeutschen Rundfunks, HANATSU miroir and Suzuki Tosiya. In recent years, Imai's interest in a close coexistence between art and society has led to her organizing the contemporary music academy and the lecture and concert series Crossboundary to further establish contemporary music in Aichi, and to her participation in locally-rooted projects and events, such as ARToC10 and Aichi Triennale. In 2020 She dedicated a short piece to Ensemble Modern which was premiered at their 40th anniversary concert. She received honorable mentions in the 28th IRINO PRIZE and the Prix Annelie de Man Prize. Currently she is an artistic director of Seainx project.

## 主な作品発表・受賞歴

- 2020 《Morphing of Es ist ein Ros'entsprungen》アンサンブル・モデルン40周年記念公演作品献上、フランクフルト（ドイツ）
- 2016 《Masque》今井智景作品個展<HANATSUmiroir定期公演>、ストラズブール（フランス）
- 2012 《towards G》ミュージック・フロム・ジャパニ委嘱作品初演、ニューヨーク（米国）
- 2009 《Simulgenesis》第4回アンサンブル・モデルン国際作曲家セミナー参加作品初演、フランクフルト（ドイツ）
- 2008 《Vectorial Projection IV - fireworks》フェスティバル・ドートンヌ委嘱作品初演、パリ（フランス）

## Selected Works & Awards

- 2020 *Morphing of Es ist ein Ros'entsprungen*, dedicated to Ensemble Modern's 40th anniversary performance, Frankfurt, Germany
- 2016 *Masque*, solo exhibition programmed for the HANATSUmiroir's concert series, Strasbourg, France
- 2012 *towards G*, commissioned by and premiered at Music from Japan, New York, USA
- 2009 *Simulgenesis*, part of the 4th International Composers' Seminar of Ensemble Modern, Frankfurt, Germany
- 2008 *Vectorial Projection IV - fireworks*, commissioned by and premiered at Festival d'Automne, Paris, France

作曲・演出：今井智景

Composition & Direction: Imai Chikage

出演：マリベス・ディグル（ソプラノ）  
江頭摩耶（ヴァイオリン）  
畑中明香（打楽器・マリмба）

Performers: Maribeth Diggie (Soprano)  
Egashira Maya (Violin)  
Hatanaka Asuka (Percussion, Marimba)

映像・オペレーション：稲田優太  
映像：マーティン・ボヴァーホフ  
写真：たかはしじゅんいち

Visual art & operation: Inada Yuta  
Visual art: Martin Boverhof  
Photography: Takahashi Junichi

舞台監督：長谷川恵一（ステージクルーインバクト）  
照明：大野敬介（ステージクルーインバクト）  
音響：長谷川健一

Stage Manager: Hasegawa Keiichi (Stage Crew Impact)  
Lighting Designer: Ohno Keisuke (Stage Crew Impact)  
Sound Designer: Hasegawa Kenichi

記録映像：株式会社青空  
記録写真：今井隆之

Video Documentation: AOZORA, LTD.  
Photography: Imai Takayuki

パフォーマンスアーツ・アドバイザー：藤井明子（国際芸術祭「あいち2022」）  
制作：村松里実（国際芸術祭「あいち2022」）

Performing Arts Adviser: Fujii Akiko (Aichi Triennale 2022)  
Production Coordinator: Muramatsu Satomi (Aichi Triennale 2022)

主催：国際芸術祭「あいち」組織委員会  
共催：愛知県芸術劇場  
協力：豊橋市魚町能楽保存会

Presented by Aichi Triennale Organizing Committee  
Co-Presented by Aichi Prefectural Art Theater  
In Co-operation with Toyohashi Uomachi Noh Preservation Society

文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

## STILL ALIVE 国際芸術祭 あいち2022



国際芸術祭「あいち2022」  
パフォーマンスアーツ

AICHI TRIENNALE 2022  
Performing Arts

アドバイザー：藤井明子、前田圭蔵  
キュレーター：相馬千秋

Adviser: Fujii Akiko, Maeda Keizo  
Curator: Soma Chiaki

プロダクションマネージャー：清水翼  
コーディネーター：村松里実、谷口裕子、芝田暹、菅井一輝

Production Manager: Shimizu Tsubasa  
Coordinator: Muramatsu Satomi, Taniguchi Yuko  
Shibata Haruka, Sugai Kazuki

テクニカル・コーディネーター：尾崎聡

Technical Coordinator: Ozaki So

票券：小森あや（bench Co.）

Ticket Administration: Comori Aya (bench Co.)

翻訳：ロバート・ツェツシェ  
編集：鈴木理映子  
デザイン：山口良太

Translation: Robert Zetzsche  
Editor: Suzuki Rieko  
Designer: Yamaguchi Ryota

PAチャンネル



各作品の背景についてのレクチャー、参加アーティストによるトークなど、パフォーマンスアーツ・プログラムを多面的に体験するためのオンライン・コンテンツです。

2022年7月30日|土— 10月10日|月・祝|[73日間]

AICHI TRIENNALE 2022: STILL ALIVE

芸術監督：片岡 真実（森美術館館長、国際美術館会議（CIMAM）会長）

主催：国際芸術祭「あいち」組織委員会  
助成：一般財団法人地域創造  
愛知県政150周年記念事業



July 30 (Saturday) to October 10 (Monday, public holiday), 2022  
Artistic Director: Kataoka Mami (Director, Mori Art Museum/President, CIMAM)  
Organized by Aichi Triennale Organizing Committee  
Supported by Japan Foundation for Regional Art-Activities